

1 調査の目的

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 令和7年4月17日(木)

(3) 調査を実施した学校・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	岩国市立小学校 27校	914人
中学校第3学年	岩国市立中学校 14校	937人

(4) 調査の内容

①教科に関する調査

【小学校：国語14問、算数16問、理科17問】

【中学校：国語14問、数学15問、理科26問】

- ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

②今年度の調査の特徴

- ・ CBT 調査の導入（中学校理科）
- ・ 生徒質問でのランダム方式の試行
- ・ 多様な児童生徒の状況把握
- ・ 結果公表の内容・スケジュールの改善

2 結果の概要

(1) 教科に関する結果

①平均正答率

○ 小学校（6年生）

	国語	算数	理科
岩国市	68	57	59
全 国	66.8	58.0	57.1
山口県	68	58	58

○ 中学校（3年生）

	国語	数学	理科（IRT スコア）
岩国市	53	43	490
全 国	54.3	48.3	503
山口県	55	48	503

※中学校理科は500が基準

②全体の結果

- 全国平均との比較（平均正答率）

【小学校】国語・理科は上回り、算数はやや下回っている。

【中学校】国語・数学・理科全て、下回っている。

③教科ごとの結果

ア 小学校 国語

【相当数の児童ができている点】

- 漢字を文の中で正しく使う。（R 6 は課題のある点）
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。
- 図表などを用いて考えを伝えるための表現の工夫を理解する。

【課題のある点】

- 事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付ける。

イ 小学校 算数

【相当数の児童ができている点】

- 異分母の分数の加法の計算をする。
- 角の大きさについて理解する。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす。

【課題のある点】

- 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を統合的・発展的に考察する。
- 百分率を「○倍」を使って捉え直し表現する。
- 数直線上に示された数を分数で書く。

ウ 小学校 理科

【相当数の児童ができている点】

- 電流がつくる磁力について、電磁石の強さと巻数の関係を理解する。
- 実験の方法を発想し、表現する。
- 【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現する。

【課題のある点】

- 金属の性質について理解する。
- 種子の発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を発想し、表現する。
- 顕微鏡の操作方法について理解する。

エ 中学校 国語

【相当数の生徒ができている点】

- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える。
- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。
- 表現の効果について、根拠を明確にして考える。

【課題のある点】

- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える。
- 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。
- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。

オ 中学校 数学

【相当数の生徒ができている点】

- 必ず起こる事柄の確率について理解する。
- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る。

【課題のある点】

- 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する。
- 素数の意味を理解する。
- ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明する。

カ 中学校 理科

【相当数の生徒ができている点】

- 収集する資料や情報の信頼性について理解する。
- 気体の性質について理解する。
- 実験器具の操作等について理解する。

【課題のある点】

- 音に関する知識及び技能を活用して、実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明する。
- 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、調査結果を関連付け、検討した結果を表現する。
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表す。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する結果

①児童生徒に対する調査

【望ましい状況】

ア 子どもたちの生活習慣

- 「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる」という規則正しい生活を送っている児童生徒の割合は高い。この結果に比例し、規則正しい生活を送っている児童生徒の教科に関する調査問題の正答率も高くなっている。

イ 子どもたちの意識

- 「自分にはよいところがあると思う」「先生は、よいところを認めてくれている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童生徒の割合が高く、教師の学習面、生活面に対する適切な接し方により自己肯定感の高まりがみられると考えられる。
- 「人が困っているときに進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童生徒の割合も高く、規範意識が身に付いているともいえる。

ウ 学習

- 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」と回答した児童生徒の割合が高く、授業で主体的に考えたり、自己の学びを調整したりしようとしている姿勢が身に付いてきているといえる。
- 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題解決に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合が高い。

エ 地域との関わり

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童の割合は、8割を越えている。

オ ICT活用能力

- 「ICT機器で文章を作成する」「インターネットを使って情報を収集する」ことができる児童生徒の割合が高い。

【課題とみられる状況】

ア 家庭での学習習慣

- 平日・休日共に1日当たりの勉強時間が全国平均、県平均と比べて短く、学校の授業以外にICT機器を勉強のために使っている割合も全国平均、県平均を下回っている。

イ 学習

- 「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均、県平均を下回っている。

ウ 社会的事象への関心

- 「新聞をほとんど読まない、または全く読まない」と回答した児童生徒の割合が高く、この結果に比例し、新聞をほとんど読まない、または全く読まない児童生徒の調査問題の正答率は低くなっている。

エ 地域との関わり

- 「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合が、全国平均、県平均を下回っている。

②学校に対する調査

【望ましい状況】

ア 学習指導

- 「児童生徒がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している」「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている」と回答した学校の割合は、全国平均、県平均より上回っている。
- 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」と回答した学校の割合は、全国平均より上回っている。

イ 小中一貫教育

- 中学校区で教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行っている割合は全国平均、県平均と比べて高い。

ウ 家庭や地域との連携

- 「コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映している」と回答した学校の割合が、100%に達している。

【課題とみられる状況】

ア 学習指導

- 「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しているか」に対する回答において、学校の認識と児童生徒の認識に差がある。

3 今後の取組

(1) 年2回の検証改善サイクルの確立

① 結果の把握と分析に基づいた指導の工夫改善

- ア 成果からみたよい取組の価値付け
- イ 誤答分析による児童生徒の思考の分析と指導方法の改善

② 全学年、全教科等を対象とした課題改善に向けた計画的な取組

- ア 学力向上プランへの反映
- イ 「やまぐち学習支援プログラム」等の活用を軸にした組織的な指導体制づくり
- ウ つまづきを解消するための個に応じた学習指導の改善・充実等
- エ 全校体制による計画的・組織的な補充学習等の学び直しの実施

(2) 授業改善

① 校内研修、一人一授業公開の実施

- ア 「岩国市授業スタンダード」に則った授業の実施
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業改善
- ウ 「引き出したい振り返り」からの授業づくり
- エ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

② 学力向上担当・研修主任会における成果と課題の共有

- ア 各学校における全校体制での取組、課題、方策の共有
- イ 校内研修の充実に向けた情報共有（Teams 活用）

③ 若手教員に向けた自主研修会の開催

- ア ミドルリーダー等を講師とした研修会の実施
- イ Teams 等を活用した情報交換

（３）地域との連携した取組の推進

① 小中一貫教育の更なる推進

- ア 中学校区でのめざす子供像、学校課題等の共有
- イ 合同授業研究会、合同研修会の実施
- ウ 「子供」を主語にした交流活動等の実践

② 学校・地域・家庭の更なる連携

- ア 「学校・地域連携カリキュラム」の実践と見直し・更新
- イ 児童生徒参画型の「学力に関する熟議」「地域貢献の視点の熟議」の充実
- ウ 学びに向かう力を育むためのキャリア教育の推進
- エ 持続可能な取組の模索